第18回 神嘗奉祝祭「祭のまつり」開催

平成感謝！今年で最後の大響演

平成30年10月14日(日)・15日(月)・16日(火)

全国から伊勢へ、平成最後の神嘗祭をみんなでお祝いします！

15日／全国各地からのお祭り踊り連がひとつになる、神嘗奉祝祭ならではの「総踊り」（写真は昨年）

最終回となる「祭のまつり」

日本各地から伝統あるお祭りが来勢して神嘗祭をお祝いする「神嘗奉祝祭・祭のまつり」が平成最後の今年、第18回をもって最終回を迎えることになりました。

日本三大民謡、日本三大盆踊り、日本三大パレード…つまり誰もが知る有名な、それもそれぞれ伝統あるお祭りから、地元でトップレベルの踊り連のみなさまが、「お伊勢さんだからこそ」という、神宮を敬う気持ちと、各団体の心意気で来勢し披露してまいりました。この特別な催しがいよいよ見納めとなります。例年以上に熱い、特別な「祭のまつり」になりそうです。

14日／サンアリーナ会場

サンアリーナでの前夜祭

今年のサンアリーナでの披露は日曜日。入場無料で、民謡や踊りの名演が次々と披露され、良い音響でじっくり楽しめる夕方からのメインアリーナのステージは必見です。前夜祭の最後は例年以上の魅力ある奉納花火で締めくくります。

（駐車場有。宇治山田駅より13時30分からシャトルバスが運行）

阿波踊り（徳島県）

よさこい鳴子踊り（高知県）

さんさ踊り（岩手県）

奉祝花火（長野県）

西馬音内盆踊り（秋田県）

郡上おどり（岐阜県）

花笠踊り（山形県）

河内音頭（大阪府）

伊勢音頭（伊勢市）

佐渡おけさ（新潟県）

木曽踊り（長野県）

宮崎県民謡（宮崎県）

熱い想いが響きあう最終回！

日本の祭りと心が伊勢に集います

祭のまつり　参加18団体

沖縄エイサー（沖縄県）

おんぼい節（岐阜県）

越中おわら風の盆（富山県）

関東木遣り（埼玉県）

諏訪御柱木遣り（長野県）

木曽木遣り（長野県）

第47回 初穂曳（はつほびき）

伊勢の民俗行事を次世代につなぐ初穂曳。外宮・陸曳では、三台の車が奉曳します。子どもたち、大学生、伊勢の町の若い衆…次のお木曳を見据えて「エンヤー！」

伊勢の民俗行事「お木曳行事」「お白石持行事」の伝統を継承し神嘗祭に実施する「初穂曳」。今年も、15日、外宮領・陸曳では、お木曳・お白石持の荷締め技術を伝えようと、それぞれの車に「お木」・「樽」・そして「米俵」が積まれます。その年に収穫されたお初穂が飾られた3台の奉曳車は、伊勢市民や県内外の特別神領民など、約1500名により「祭のまつり」会場を運行します。16日の内宮領は、初穂船を曳き五十鈴川をさかのぼる川曳。今年は大湊奉献団が運行を担当します。

初穂曳（陸曳）

初穂曳（川曳）

終了後には初穂やお米を手に奉納参拝

■平成30年 開催日程

10月14日（日）　前夜祭
会場　三重県営サンアリーナ
開催時間　16：20～21：00頃

10月15日（月）　祭のまつり
会場　県道伊勢南島線
外宮・北御門周辺
開催時間　11：30～15：20

10月15日（月）　初穂曳（外宮）
会場　高柳～伊勢南島線～外宮
開催時間　10：00～12：00頃

10月16日（火）　初穂曳（内宮）
会場　五十鈴川
（浦田橋～宇治橋）
開催時間　10：00～14：00頃

■伊勢の子どもたちと共に米作りから奉納まで

伊勢神宮奉仕会青年部では初穂曳を次世代へつなげていくために、できる限り青年層が中心となって、奉曳の技術を研鑽しています。またその一環として、初穂曳で奉納するお米づくりも毎年行っています。

初穂曳に参加する子どもたち（団体参加）も、いっしょに田植え、稲刈り、とお米づくりを体験。毎年、初穂曳を楽しみにしています。子どもたちのかわいいエンヤの掛け声も奉曳には欠かせません。

※神宮奉仕会青年部の活動については事務局にお問い合わせください

田植えの様子（4月29日）

Q 神嘗祭とは、どんなお祭りですか？

神宮のお祭りの中でも神嘗祭は、その年収穫された稲穂を天照大御神に供する、一年を通して最も大きな祭儀。大御饌（＝神様のごちそう）を奉り、命の源であるお米が収穫できたことを神に感謝します。

「神嘗正月」＝神宮のお正月とも言われ、神嘗祭をもって一年ごとに神事にまつわるものを一新します。そうして毎年繰り返された20年目を「大神嘗祭」、それが式年遷宮です。

祭儀は一般公開されていませんが、神嘗祭にはご正宮を囲む内玉垣には懸税（カケチカラ）と呼ばれる全国から寄せられた稲束がずらりとかけられているのをみることができます。